

千葉県言語聴覚士会ニュース

NO. 31 2009 年 12 月 6 日

目 次

会長から 1	匠の技 1 1
言語聴覚士協会臨時総会の報告 2	作業部会から 1 3
学術局から 3	理事会等報告 1 3
施設紹介 9	事務局から 1 7
臨床こぼれ話 1 0		

◇ 会長から ◇

～第13回都道府県士会協議会報告～

会長 吉田浩滋

11月8日午後、都道府県士会協議会が有楽町駅近くにある東京国際フォーラムで開催されました。参加は34の士会で、北は北海道士会から南は沖縄県士会までの会長が勢ぞろいし、冒頭、深浦会長から一般社団法人日本言語聴覚士協会が会員総数の3分の2以上の賛成を集めて設立されたことは、各県士会の協力、取り組みがあったからできたことだとして、感謝の言葉が述べられました。

協議では1)協会活動についての報告、2)活動支援のあり方、活動支援補助金のあり方、3)来年度以降の言語聴覚の日事業について、4)各県士会の現状報告と情報交換が行われました。

1)協会活動の報告では、来年度に行われる診療報酬の改定に向けてPT、OTなどの3協会と一緒に要望書を出したこと、3年後に予定されている診療報酬の改定に向けては、3協会に医師の団体を加えた5団体で要望書をまとめる準備をしているという報告がありました。

2)活動支援については、協会から協議会に参加している県士会に対して年間5万円を上限として協会が支出している活動支援補助金の継続が協議されました。これについては多くの県士会が継続を希望し、千葉県士会としては、5万円以上の援助ができないかという提案を行いました。

3)言語聴覚士の日事業については、現在9月に協会が東京都で行っている「言語聴覚の日」事業を各県士会の持ちまわりで開催して欲しいという協会からの要望が提出され、千葉県も含め、2～3県士会が立候補をおこないました。

4)情報交換では県士会の人数、会費、研修会の実施状況が報告されました。会費は最高1万円から最低2000円と幅がありますが、多くは3000円から5000円の間でした。また、いくつかの県では、STがPTやOTの県士会主催の研修会に参加でき、また、PT、OTもSTの研修会に参加できるなど、関連職種の連携を強める働きかけが行われており、注目されるものだと思います。

★★★日本言語聴覚士協会第 11 回臨時総会および 一般社団法人日本言語聴覚士協会設立総会・第 1 回総会報告★★★

事務局 古川大輔

平成 21 年 9 月 13 日（日）12 時 30 分より、東京都港区にある笹川記念会館で日本言語聴覚士協会の第 11 回臨時総会および一般社団法人日本言語聴覚士協会の設立総会・第 1 回総会が開催されました。総会に先立ち深浦会長より、法人化は設立以来の重要な課題の 1 つであり、今回の臨時総会や設立総会において十分な審議をお願いしたいと挨拶が行われました。



第 11 回臨時総会では、議長に相澤悟氏（かしま病院）、副議長に半田理恵子氏（在宅リハビリテーションセンター成城）が選出されました。出席者数の確認では、正会員総数は 8891 名（組織率約 70%）、出席者総数は 6931 名（内訳は会場出席者 69 名、委任状 3760 名、書面評決 3102 名）であり、定足数を満たし臨時総会が成立することが議長より宣言され議案の審議に移りました。

第 1 号議案では、深浦会長より現協会を解散し、会員・財産・事業を一般社団法人日本言語聴覚士協会に引き継ぐことが提案されました。議場閉鎖後に行われた採決の結果では、賛成 6894 名で、会員総数の 2/3 を超え、日本言語聴覚士協会の解散に関する議案が承認されました。引き続き深浦会長より第 2 号議案の平成 21 年度事業報告が、立石副会長より第 3 号議案の平成 21 年度収支決算に関する件が提出され、いずれも賛成多数で承認され、第 11 回臨時総会は閉会となりました。

引き続き、一般社団法人日本言語聴覚士協会の設立総会・第 1 回総会が行われました。議事は会場参加者の賛成により、第 11 回臨時総会の議長、副議長が引き続き進行することになりました。出席者総数は先に行われた臨時総会と同様の 6931 名であり、解散した日本言語聴覚士協会から引き継いだ会員 8891 名を本総会の母数とする説明が議長より行われ、設立総会・第 1 回総会が成立することが宣言されました。その後深浦会長より第 1 号議案として、一般社団法人日本言語聴覚士協会（以下 JAS と略）を設立する案が提出され、採決の結果、会員総数の 2/3 を超え承認されました。第 2 号議案、JAS の定款案ならびに役員案に関する件が提出され、JAS においては評議委員の名称が審議員となり、理事会からの審議事項等を審議し、意見を答申するなどの説明が行われました。次に立石副会長より第 3 号議案の平成 21 年度事業計画に関する件、第 4 号議案の平成 21 年度収支予算案に関する件が提案されました。第 4 号議案では、京都府立リハビリテーション病院の平野氏より、現在ストックされている予算についての詳細な内容の公表時期についての質問が出されました。立石副会長からは、今回は事業途上のため公表していないが、次回総会の決算報告で行いたいとの説明が行われ、採決の結果いずれも賛成多数で承認され、JAS の設立総会・第 1 回総会は閉会されました。

閉会后、深浦会長から「3 分の 2 を遥かに超える会員から賛同を得て新協会を設立できたこと嬉しく思う。言語聴覚士の底力を感じた。今後は会員が総会に参加し意見を出し合える、力のある会にしていきたい。」との挨拶がありました。

◇ 学術局から ◇

学術局 木下亜紀 平澤美枝子

1. 平成21年度第3回研修会のお知らせ

平成21年度第3回研修会は高次脳機能障害をテーマに症例検討会を行います。小児、成人の各分野からご発表いただき、お二人の講師に症例へのアドバイスとそれに関連する講演をしていただきます。また、症例検討会後に情報交換会を行い、参加者の皆様に臨床で感じている疑問やご意見をご発言いただき、皆様で考え、連携を深める場にご活用いただければと考えております。お誘い合わせの上、ご参加ください。

*日時：平成22年1月17日（日） 13時00分～16時40分

*会場：千葉大学医学部附属病院 3階 第1・3講堂

*内容

13:00～15:40（症例発表／講演） 第1講堂

成人：流暢性失語の一例

発表者：順天堂大学医学部附属浦安病院 言語聴覚士 酒井 譲 先生

小児：急性脳症を発症した児に対する就学指導について

発表者：亀田クリニック 言語聴覚士 加藤 志央 先生

助言者：千葉県救急医療センター 言語聴覚士 佐藤 幸子 先生

前千葉リハビリテーションセンター 言語聴覚士 竝木 美恵子 先生

15:50～16:40（情報交換会） 第3講堂

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第2回研修会報告

平成21年9月6日（日）に千葉大学医学部附属病院で第2回研修会を開催しました。今回は、当会の介護保険委員会、聴覚障害委員会と連携して講演会を行いました。参加者は74名でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

研修会の概要

（成人・制度）

講演：介護保険におけるST業務の現状

講師：緑ヶ丘訪問看護ステーション/介護老人保健施設ユー・アイ久楽部

言語聴覚士 勝又 綾子 先生

概要：介護保険下でのST業務の動向や介護保険におけるST業務の現状について、千葉県言語聴覚士会介護保険委員会が実際に勤務する現場での業務の実際や症例を中心に報告していただきました。

介護保険は平成12年に施行されましたが、STの業務に関しては平成18年の改正で初めて明記され、他のリハビリ職種に比べると出遅れていました。今年度の改正でSTも対等となり、今後は更にSTの業務が拡大すると期待されるとのことでした。しかし、実際に介護保険に関与しているSTは少ないのが現状であり、一口に介護保険といっても、介護療養型医療施設（療養病床等）、介護老人保健施設、訪問リハビリテーション、訪問看護ステーションと多種の活動の場があり、それぞれ異なった制度の中での業務となることをご説明いただきました。また、介護保険に関わるSTとして、いくつか共通する遣り甲斐や問題点が挙げられました。遣り甲斐としては長期的にわたって関わりを持てること、生活に即した訓練が行えることなどが挙げられ、問題点としてはST数の少なさ、リスク管理や連携の困難さなどが挙げられました。

介護保険に関わったことのないSTの方々にも介護保険下での活動を知っていただく機会となりました。また、情報の少ない介護保険下で働くSTの方々にとっても貴重なご報告でした。



（小児）

講演：就学前の情報を学校に引き継ぐための『相談支援ファイル』の活用

講師：印西市立子ども発達センター 言語聴覚士 渡辺 裕貴 先生

印西市教育委員会学校教育課 指導主事 増田 洋子 先生

概要：発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業の指定を受けている印西市の取り組みについて、就学前の情報を学校に引き継ぐための「相談支援ファイル」を中心に、印西市立子ども発達センターの渡辺裕貴先生と印西市教育委員会学校教育課の増田洋子先生にご講演を頂きました。現在、印西市は、特別支援連携協議会、専門家チーム、巡回相談などの他に、連携協議会の下に教育委員会、健康管理課、子育て支援課、保育課、社会福祉課、子ども発達センターで構成される「特別支援5課担当者連絡会議」を設け、支援ネットワーク作りの検討や相談支援ファイルの作成と活用を行っているとのことでした。この中にある子ども発達センターに勤務される渡辺先生は、言語聴覚士として、3歳児健診のことばの相談、教育委員会の専門家チーム、巡回相談、特別支援教育5課担当者連絡会議、就学指導委員会で活動され、更に教育委員会や保育園、幼稚園など各教育機関との連携など、さまざまな場面での役割を担っておりました。これらの活動の中で紹介されていました、「コスモスファイル」は、『特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒についての情報を、保護者の承諾のもと、関係機関が共有し、適切な支援にいかしていく』もので、保護者がコスモスファイルの資料を提示することで、お子さんについての説明を簡略化し、相談や支援を受けやすくするための資料として活用されていました。またこの資料を十分に活用していくためには、記入方法や保護者説明のマニュアル化などが重要であることを教えて頂きました。更に、今後はより充実した支援のため、乳



幼児から就労まで総合的支援ネットワークづくりを目指しているとのこと報告もありました。そして最後に、それら支援ネットワークのコーディネーターとしてSTは、『人と人のつながり』を大切にしていけることが最も重要であるということ、先生のご活動の中から学ぶことができました。コスモスファイルや支援ネットワークの活用から理想的な支援のあり方を学び、現在みられる各地域・各段階の課題が理解できる良い機会となりました。

(聴覚)

講演：聴覚障害を知る 初級編

ー聴覚障害者をどのようにみつけたらよい？どう対応する？

聴覚障害はあまりわからないという方にー

講師：千葉市療育センター やまびこルーム 言語聴覚士 高橋 典子 先生

千葉大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 言語聴覚士 常田 千佳 先生

日本補聴器センター 言語聴覚士 荻洲 えりも 先生

概要：普段、聴覚障害を対象としていない会員の皆様にもわかりやすいように、基礎的な内容を3名の先生にご講演いただきました。当日、会場には補聴器を始め、様々な聴覚障害に関する機器が展示され、講演会前後に実際に手に取り委員の方々にご説明していただく機会もありました。小児からは、高橋先生にご講演いただき、ことばの遅れや発音の問題で受診したケースも必ずきこえをチェックする必要がある、①きこえについての質問や臨床場面での音・音声への反応からきこえにくさがあるかを総合的に判断すること。②軽度の難聴や高い音だけきこえにくい難聴もあるので、ささやき声への反応を確認することが重要なこと。③訓練でよく使用する絵カード、おもちゃ、楽器を使つてのきこえの反応の観察ポイントを紹介していただきました。成人は、常田先生にご講演いただきました。聴覚障害を見つけるには、①病院・施設・家庭での、音への反応や本人のコミュニケーション状態を観察すること。②耳の症状や聴力の程度を見て、耳鼻科の受診を勧めること。補聴器を勧める場合は、①必ず耳鼻科にて耳の状態を診察してもらうこと。②補聴器の限界について説明をすること。③補聴器をしていない聴覚障害の方への対応方法として、集音器やワイヤレスの機器など用いることをお教えいただきました。補聴器については、荻洲先生にご講演いただきました。補聴器の機能は、①聴力の程度やタイプに合わせて、音をコントロールすること。②補聴器の限界は、メガネとは違い、着けただけで聞こえるわけではないこと。③補聴器をして、音は届いても語音として認知できない場合もあり、騒音下での聞き取りも難しいこと。④補聴器を装用していても、上手く使えないことがあり、うるさい、なにをしゃべっているかわからない、自分の声が響く、雑音がするなどもあり、理由としては、補聴器に対する期待過大、販売側の説明不足、本人の理解不足、補聴器調整技術の未熟、装用耳選択の問題、感音性難聴のリクルートメント現象による問題、操作困難、が挙げられることをお教えいただきました。また、集音器やワイヤレスシステムなど聴覚障害者用の支援システムについて紹介していただきました。

聴覚障害委員会では、定期的に研修会を開催することが検討されています。今後の研修会情報にもご期待ください。

アンケート結果

＜研修会に参加していかがでしたか？＞

〔成人・制度〕 介護保険におけるＳＴ業務の現状

とても良かった 21 普通 2 期待していた内容と異なった 0

- ・急性期病院勤務であり、介護保険制度や介護保険施設でのＳＴの現状については不勉強でした。「寝たきり」、「看取り」の患者さんにもできることは沢山あるというのは急性期病院でも、感じるところです。ターミナルの癌患者を多く見ると、最期の時までＳＴとして、ご本人に、ご家族に関われる・関わらねばならない部分がたくさんたくさんあると思います。生きている以上、コミュニケーションと呼吸・嚥下を守る必要があるので、ＳＴにしかできないアドバイスは最期の時までしたいと感じます。医療保険においてもターミナルのＳＴ、寝たきりのＳＴの適応を積極的に訴えていきたいと思います。
- ・私もパートで老健に勤めています。今まで研修会・勉強会に参加することが少なかったため、自分の業務が正しいかすらわかっていませんでした。介護保険下で働くＳＴは少なく、情報がない、と勝手に思いこんでいたので、介護委員会の方の具体的な業務内容を聞くことができ、安心する点、改善すべき点等が少し見えた気がしました。ありがとうございました。
- ・病院に勤務しているため、介護保険におけるＳＴの現状がよくわかりませんでした。興味があってもなかなか知る手段がなく、今回はとてもよい勉強になりました。在宅へつなげるためにも、在宅の現状を報告して下さる機会をたくさん設けてほしいです。
- ・認知症の方、寝たきりの方が増えている今、ＳＴが長期的に関わっていくことの重要性をよく理解できました。私は医療保険で訪問に行っていますが、介護保険における訪問と重なる部分、異なる部分を知ることができ、良かったです。

〔小児〕 就学前の情報を学校に引き継ぐための「サポートファイル（相談支援ファイル）」の活用

とても良かった 13 普通 4 期待していた内容と異なった 0

- ・子どもガイドブック及びコスモスファイル、とても素晴らしいと思います。幼・保・小・中・高の各先生方の引き継ぎもさることながら、保護者の方自身の情報の整理や安心感につながられるものではないかと思います。是非、他の自治体でも早急に取り入れてもらいたいです。
- ・サポートファイルがひとり歩きしないよう関係部署や所属機関との連携が大切なのだということがよくわかりました。
- ・自分の子どもの実態を受け入れられない保護者も多い。その保護者のサポートファイルの引き継ぎは難しいと思われるが、その辺についての対応をもう少し詳しく事例等も含めて話してほしかった。
- ・相談支援のファイルの使い方、共通理解、ネットワークづくりの難しさ大切さを感じました。自分の住んでいる地域にもあるかどうか調べていきたいと思います。

〔聴覚〕 聴覚障害を知る 初級編

－聴覚障害者をどのようにみつけたらよい？ どう対応する？聴覚障害はあまりわからないという方に－

とても良かった 28

普通 4

期待していた内容と異なった 1

具体的に：

- ・具体例がたくさんたくさんあり、非常にわかりやすかったです。
- ・聴覚障害を専門にあつまっている先生方のお話を聞く機会がほとんどなかったので、今回は大変貴重なお話がきけました。ありがとうございました。
- ・小児分野では聴力について細かい部分まで観察することの大切さ、周りにあるもの全てがヒントになる道具であることを学ばせていただきました。成人分野では、様々な例について具体的に教えていただき、よかったです。補聴器分野では、学校で学んでいる以外にも詳しく説明していただき、本当に勉強になりました。
- ・補聴器にいろいろな種類があることに驚きました。補聴器の調整についてもっと詳しく知りたいと思いました。
- ・現在働いている所は、小児対象ではありませんでしたが、とてもよい復習、そして新たに学ぶことがありました。成人では改めて患者さまへの対応の仕方を見直すよいきっかけとなりました。非常にわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・わかりやすく、知識の再復習になる部分と、知らなかった部分もあり、勉強になりました。養成校をでて以来、聴覚障害にふれるのは久しぶりでした。

<今後の研修会への希望>

- ・小児発達障害、高次脳関係についての講演が聞ければと思います。
- ・小児と成人の両方に出席できるように時間をずらしてほしい。
- ・新人教育の在り方についての会もあると助かります。(回復期での大幅増員に伴う低年齢化について)
- ・嚥下障害について(口腔ケアやNSTの分野も含めて)研修会をしてほしいです。
- ・小さなテーマで少人数での研修会を行ってほしい。参加者の横のつながりがもてるような研修会を希望します。交流会ではなく、テーマのある会を希望します。
- ・聴覚障害だけでなく他の分野の初級編もあれば勉強になると思います。

学術局より<研修会を終えて>

今回の研修会では、各委員会の委員の皆様のご協力の元、具体的なお話をしていただき、大変好評でした。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますようお願いしております。

[研修会の症例発表者募集]

次年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、ぜひ発表してください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。申し込みや問い合わせはホームページ、事務所へのFAX、郵送でお知らせください。

3. 研修会ビデオの貸し出しと資料の送付

1) ビデオの貸し出し

これまでに実施した研修会のビデオ、DVDを貸し出しています。

下記の要領でお申し込みください。

方 法：返信用封筒（B5またはA4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（ビデオ1本270円分、
2本390円分）を貼り、下記宛にお送りください。

宛 先：〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

千葉県言語聴覚士会事務所

貸し出しビデオ、DVD：対象となる研修会の詳細は、県士会ホームページからお問い合わせください。

貸出期間：1ヶ月

貸し出しについての注意

ビデオ、DVDの販売はしません。ダビングは禁止です。ビデオ、DVDを紛失、破損した場合はご連絡ください。ビデオテープ、DVDの代金を弁償していただきます。

2) 資料の送付

希望者に研修会資料を配布しています。返信用封筒（A4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（200円分）を貼りお送りください。宛先はビデオ貸し出しと同様です。

対象となる研修会についての詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

4. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

小児の分野では、これまで、病院勤務の言語聴覚士、学校現場の言語聴覚士、養護教諭など、立場が違っても共通の子どもたちの成長に携わっていても、なかなかお互いにコミュニケーションがとれないという声がたくさん寄せられていました。そこで「小児多職種合同勉強会」を県内5地域に発足させ、さらに発展させようとしています。ご活用ください



施設紹介

千葉市立海浜病院 S T 庄野 勝浩

当院はベット数 301 床、診療科は 15 科、平均在院日数 13.7 日の地域中核をなす急性期型の病院です。千葉市の北西に位置し、幕張メッセと稲毛海浜公園に挟まれた、海に沈む夕陽と富士山がとてもきれいに見える病院です。私は S T であるとともに、臨床検査技師でもあります。私の他に非常勤 S T が月に 3 ～ 5 回程度（主に補聴器外来担当）担当しています。内容は耳鼻科外来で行えるものが主体です。当院は新生児聴覚スクリーニング精査機関ということもあり、O A E ・ A B R ・ A A B R ・ A S S R に B O A ・ C O R 等実施しています。診断後の療育面については、協力機関として千葉市療育センターの他、ろう学校などがあります。その他各種聴力検査に補聴器外来、摂食嚥下の評価・訓練が主になります。チーム医療の一環として N S T にも参加しています。

この 4 月より N S T 外来も発足し、地域連携室経由にて栄養全般、P E G、摂食嚥下の評価相談等も行うようになりました。急性期の病院ということもあり、かかわれることには限界がありますが、出来ることから無理をしないでやっていきたいと思っています。

〒261-0012 千葉市美浜区磯辺 3-31-1 TEL : 043 (277) 7711

難聴幼児通園施設 千葉市療育センター やまびこルーム . . . S T 高橋 典子

やまびこルームは、千葉市療育センターの中にある心身障害児総合通園センター（外来部門と通園施設から成る）の 1 施設で、昭和 56 年 6 月に開設されました。0 歳から就学前までの難聴のお子さんが保護者の方と共に通園する施設で、定員は 30 名です。言語聴覚士、保育士、児童指導員が連携して療育にあたっています。新生児聴覚スクリーニングの広まりとともに、生後 6 ヶ月～1 歳頃の乳児期に医療機関から紹介されるケースが増えてきました。

当ルームでは難聴児に対し個別指導とグループ指導を行っています。個別担当の S T は言語・コミュニケーション指導と共に聴力検査、補聴器のフィティングを行います。低年齢児のグループ指導では親子遊びが中心ですが、徐々に子ども同士の関わりを促し、言語力と共に他児とコミュニケーションする力を育てていきます。難聴児の療育においても保護者支援は大変重要です。難聴のお子さんとの関わり方を具体的に助言し、親子の豊かなコミュニケーションを育むと共に、お子さんの障害を理解し、受け止めて、前向きに子育てができるよう支援しています。

日々の指導に加えて、行事（遠足、運動会、クリスマス会等）、耳鼻科嘱託医による検診（月 2 回）、外部から講師を招いての保護者勉強会、園児が通う幼稚園・保育所の訪問支援なども行っています。

保護者の方の思いをしっかり受け止めニーズに応えると共に、子ども達がのびのびと育ち、笑顔がはじける施設にしていきたいと思えます。

〒261-0003 千葉市美浜区高浜 4-8-3 TEL : 043 (279) 1141

臨床こぼれ話

=== そばやカンファレンス ===

東京都立大塚病院 リハビリテーション科 鈴木 勉

S Tになって10年くらいたった頃、短い間だが東京の高円寺に住んだことがある。新宿から地下鉄で10分、駅から徒歩2分のところで、便利な場所だった。その高円寺の部屋で、S Tの仲間数人で土曜日の午後に勉強会をしていた。それぞれ自分の症例をもちより、いろいろと意見を言い合う気楽な集まりだった。そのメンバーの中に、TさんとHさんがいた。夕方まで症例検討をした後、高円寺の繁華街にしばしば3人で出かけた。駅の近くに我々の気に入った蕎麦屋があった。あまりはやらないらしく、いつも客は少なかった。それをいいことに、奥のせまい畳のスペースに上がりこみ、長居した。私とTさんは日本酒党だった。一方Hさんは全くお酒が飲めなかった。次第に酔いが回って私とTさんの呂律があやしくなっていく傍で、Hさんはお茶をすすりながら、ニコニコと聞き役に回ってくれた。

話題は仕事に関することばかりだった。私はS Tになってしばらく仕事に自信が持てずにいたが、ルリアを読んだり、仮名訓練を経験したりして、失語の訓練がようやく面白くなった時期だった。その頃は抛るべき訓練の原則が欲しかった。そういうものがあれば、もっと仕事に不安が少なくなるだろうと思っていた。そんな気持ちをよく2人に聞いてもらった。Tさんは、訓練方法を工夫し、それが成功した時に味わう成功感がS Tの醍醐味だといい、自分の方法の背景にある考えを説明してくれた。Tさんの独創的なアイディにはいつも感心したものだ。酒が回り二人の思考に破綻が生じてくると、Hさんが冷静な頭でうまく整理してくれた。

資格制度のことも、しばしば話題になった。まだ資格がなく、資格制定の是非をめぐってS Tが二つに割れていた時代だった。保険点数が低く、職場で肩身の狭い思いをしているS Tもいた頃である。この「そばやカンファレンス」は2年くらい続いたのだったか。私が東京から千葉に移り、Hさんも東京を離れたので、終わりとなった。止めるのが忍びないほど、楽しい集まりだった。私には失語症訓練を考える上でずいぶんプラスになったが、それ以上に気の合う仲間と、好きなことを際限なくしゃべりあい、気持ちが楽になることに、より大きな意味があったかもしれない。いい仲間ありがたい。

※編集部では「臨床こぼれ話」原稿を募集しております。臨床を通して会員・会友の皆様になにかを伝えたいと考えていらっしゃる方は、県士会事務局へメールにてご連絡ください。



《新連載》



専門外の知識や技術で、知っていれば役立ちそうなのに、まあ何とかなるからいいやと片付けていることはありませんか？今号からそんな方のために、各領域のプロフェッショナルにSTに役立つ情報をわかりやすく解説して頂く新コーナーを企画いたしました。第一弾は、理学療法士による、ベッドから車椅子への移乗法です。

素人でも分かりやすい、ベッドから車椅子への移乗介助

千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部 理学療法士 田中康之

千葉県言語聴覚士会の皆様、こんにちは。この原稿、タイトルが「匠の技」ということで、恥ずかしいやらうれしいやら。「匠」かぁ……。いい響きですね。タイトルに恥じないように、皆様へ情報提供ができたらと思っております。では、少々お付き合い下さい。

1. 素人でも分かるには

頂いたお題の中に「素人でも分かりやすい」という言葉がありました。目の前に対象者がいて一緒に考えるのであればまだしも、限られた紙面ではハードルが高いお題です。

しかし、どんな介助の素人でも、自分自身がベッドの端に腰かけ、ベッドの脇に置いてある車椅子に乗り移るということはできますよね。その自分の身体の動きから移乗介助を考えること、これこそが「素人でも分かる」移乗介助取得の一番のコツです。

2. 環境が整えば

2つの図は、ベッドから椅子への移乗です。違いがおわかりでしょうか。図1は、椅子に肘掛けがあるために、立ち上がり、臀部を肘掛けより高くあげ、それから椅子に座るといった移乗動作になっています。図2は、肘掛けが無いので、「立ち上がる」、「座りこむ」という動作が省略されています。図1の方法を立位移乗、図2の方法を座位移乗と言います。



立ち上がり、座りこみが必要

図1：立位移乗



そのままお尻をずらせる

図2：座位移乗

立位移乗は、手すりを用いて自分で立てる人、僅かに支える介助があれば立ち上がれる人、そして何

よりも、座るときにドスンと落ちずにゆっくり座れる人であれば可能な方法です。しかし、ベッドの端に座るのがやっとの人、立ち上がりの介助量が明らかに多い人、そして何よりも介助者が頑張らないとドスンと落ちるように座ってしまう人には、適さない方法です。立位移乗は、体重の上下移動があり、本人と介助者ともに大変です。必然的に転倒・転落リスクが高くなります。

座位移乗は、体重の上下移動がほとんどないので、本人、介助者の負担と転倒・転落のリスクが少なくなります。この方法であれば、立ち上がりが困難な人や辛うじてベッドの端に座ることができる人でも、軽介助で移乗が可能となります。何よりも立位移乗では絶対に介助が必要だった人が、座位移乗では自立する可能性が出てきます。

車椅子の肘掛けと足台を外せて、ベッドと車椅子の高低差を殆ど無くし、その隙間を減らすことができれば、座位移乗の基本的な環境は整います。詳しい方法は様々な移乗介助関係の書籍をご覧ください。環境が整えば、難しい介助も簡単にできるのです。

3. 「立ち上がり」は「立ち上げない」

しかし、環境が整わないために、立位移乗の介助を行わなければならない場合もあります。このときの一つの関門が「立ち上がり」の介助です。では、自分で一回立ってみましょう。どうやって立っているか自分の動きを考えてみてください。ヒントは、体重がかかっている場所の変化です。座っているときは主に臀部に体重がかかっていると思います。立ち上がったら足底に体重がかかっています。座っている時に臀部と足部はどちらが前にありますか？

おわかりになりましたか。立ち上がるには、臀部にかかっていた体重を、しっかりと前方の足底に移すことが重要なのです。「立ち上がる」の「上がる」ばかりを意識して、身体を上を引き上げても、実は立てないのです。この動きを知っているのと、知らないのでは立ち上がりの介助負担は雲泥の差です。このように、自分の動きを知ることこそが「素人でも分かりやすく」の大きなポイントです。

4. 対象者×自分×環境＝∞（無限）

人の身体は千差万別です。ですから一つの移乗介助方法の形を覚えて、その方法に対象者を当てはめようとすると、転倒・転落につながります。体重 30kg への介助と 80kg の人への介助が同じ方法で出来ると思いますか？脳血管障害の人と脊髄損傷の人が同じ方法でできると思いますか？

そして、もう一つ。重症者を介助できるようになれば、軽症者の介助は楽にできるわけではありません。重症で座位保持が困難な人であれば、移乗用リフトを利用します。しかし、端座位保持は出来るけれども立ち上がれない人にリフトを利用することは通常ありません。移乗介助は「大は小を兼ねない」のです。対象者と自分、そして環境から鑑みて、どのような移乗介助が良いのか、「移乗介助におけるリスク」「本人の残存能力」はどうなのか、というケアチームの中の議論から「その人」に合った介助方法を選択することが大切です。だからこそ、自分の動きを参考にすること、健常者同士で介助の練習をすることが、大切なのです。

5. おわりに…あなたが出来なくて

「言語聴覚士は移乗介助の素人だから…」という声を聞きますが、退院後の多くの介助者は素人の家族です。ですから、言語聴覚士のあなたが出来ない方法を家族に習得してもらうことは無理！というくらいの思いで取り組んで欲しいと思います。

◇ 作業部会から ◇

◎◎◎リハビリテーション公開講座作業部会◎◎◎

第3回 リハビリテーション公開講座が開催されました！

千葉県立循環器病センター 神作暁美

総泉病院 羽場依子

昨年度に引き続き、今年度も10月17日（土）に千葉市美浜文化ホール・メインホールにおいて、千葉県理学療法士会・千葉県作業療法士会・千葉県言語聴覚士会・千葉県リハ医学懇話会の合同主催による「第3回リハビリテーション公開講座」が開催されました。一般の県民中心に81名の方の参加があり、講演、個別相談、県士会紹介等を行いました。

今回は「脳卒中におけるリハビリテーション～自宅で安心して暮らせるように～」をテーマに、千葉県千葉リハビリテーションセンター長の吉永勝訓先生による基調講演の後、各専門職の支援の内容などを各県士会代表が講演しました。当県士会からは、らいおんクリニックの日下智子氏が、コミュニケーション障害や摂食・嚥下障害の特徴や対応を、具体的な事例紹介を交えながら、大変分かり易く説明しました。参加者からのアンケートでは「素晴らしい講演だった。」「継続発展を期待します。」などのご意見を頂きました。また、個別相談も多くの方に活用して頂き、その中には「相談に乗ってくれた方が親身になってくださり、本当にありがたかった。」との感想も頂きました。

千葉県におけるリハビリテーションの発展のためにも大変意義のある企画だと思います。ご協力頂いた会員の皆様に感謝いたします。

◇ 理事会・委員会等報告 ◇

◆ 平成21年度 理事会

《第4回》

日時：2009年6月21日（日）13時12分～15時45分 場所：千葉市黒砂公民館 1階 和室

出席者：吉田、木下、小嶋、斉藤、相楽、平澤、古川（以上理事7名）、三原、五十嵐（書記）

1. 協議事項

（1）事務局より ・新入会員など ・平成21年度の局員・部・委員の承認について ・県士会創立10周年記念行事について ・求人情報掲載の承認過程の簡素化について （2）編集部より ・県士会ニュース30号について （3）リハビリテーション公開講座作業部会より ・第3回リハビリテーション公開講座について （4）生涯学習プログラム基礎講座作業部会より ・平成21年度千葉県言語聴覚士会開催版実施計画案 （5）社会局広報部より ・求人情報等の理事会承認について ・HP掲示板の迷惑投稿防止・HP上でのエントリーフォーム検討について （6）その他 ・「千葉県功労者」の候補・推薦について ・介護保険情報交換会について

2. 報告事項

（1）事務局より ・到着郵送物など ・日本言語聴覚士協会（以下協会）・地域協議会の参加報告 ・協会総会の参加報告 （2）学術局より ・平成21年度第1回研修会の総括など

《第5回》

日時：2009年7月26日（日） 13時00分～16時30分 場所：千葉市黒砂公民館 2階 会議室

出席者：吉田、木下、小嶋、斉藤、相楽、平澤、古川（以上理事7名）、太田（書記）

1. 協議事項

（1）事務局より ・各種議事録の承認 ・第2回研修会の演題変更に関する報告・平成21年度の小児言語委員会について ・新入会員・退会該当者 ・帳簿管理と会計ソフトについて ・旅費について ・研修会の申込先を県士会事務所にした場合の情報処理について ・7月30日の関係部署への挨拶について・各県士会に対するアンケート調査について・委嘱状発行について （2）学術局より ・第3回研修会講師候補と症例発表者の決定について ・次年度第1回テーマ、講師について ・県士会としてパソコン、ビデオ、三脚などの購入について

2. 報告事項

（1）事務局より ・到着郵送物などについて （2）介護保険委員会より ・第3回勉強会の開催について ・平成21年度第2回介護保険委員会勉強会について （3）その他 ・訪問リハビリ管理者研修会について

《第6回》

日時：2009年8月23日（日） 10時06分～11時32分 場所：千葉市黒砂公民館1階 工芸室

出席者：吉田、木下、斉藤、相楽、（以上理事4名）、五十嵐（書記）

1. 協議事項

（1）事務局より ・各種議事録の承認 ・新入会員・退会該当者確認 ・研修会の申込先を県士会事務所にした場合の情報処理について ・事務所の機能、存続について ・メーリングリストの利用について ・有料申込フォームの利用について ・要綱、各理事の仕事の内容、及びマニュアル化について ・全国失語症者のつどい福井大会について ・全国言語聴覚士協会の解散、法人化について （2）学術局より ・来年度第1回研修会のテーマ、講師について

2. 報告事項

（1）事務局より ・到着郵送物などについて （2）会長より ・7月30日の関係部署への挨拶について

《第7回》

日時：2009年9月27日（日） 13時02分～16時02分 場所：千葉市黒砂公民館 1階 和室

出席者：吉田、木下、小嶋、斉藤、相楽、平澤、古川、宮下（以上理事8名）、岩本（監事）、稲坂（書記）

1. 協議事項

（1）事務局より ・各種議事録の承認 ・新入会員・退会該当者承認について ・言語聴覚士協会（以下RST協会）解散、及び一般法人設立総会の報告 ・11月8日開催の都道府県士会協議会について ・県士会ニュース31号について ・10周年記念行事について ・インターネットFAXの導入について ・新しい理事会での不便な点、不明な点について ・要綱の検討をいかにしてスタートさせるかということについて ・事務所の存続について （2）学術局より ・第2回研修会反省（アンケート結果）について ・第3回学術局議事録について ・平成22年度第1回総会、研修会について

2. 報告事項

（1）事務局より ・到着郵送物などについて （2）財務局より ・業務報告について ・提案事項について ・高次脳機能障害委員会から ・講師料について

《第8回》

日時：2009年10月25日（日） 13時06分～15時17分 場所：千葉市黒砂公民館 和室

出席者：吉田、木下、斉藤（公）、平澤、古川、宮下（以上理事6名）、岩本（監事） 酒井（書記）

1. 協議事項

（1）事務局より ・前回の理事会その他の議事録承認 ・新入会員・退会者承認について ・年間スケジュールについて ・総務と財務の仕事の再編について ・県士会ニュース31号の進捗状況について ・10周年記念行事の開催月、場所の変更について ・基礎講座講師の再募集について ・実態調査アンケートについて ・郵便物の保存期間について ・事務所留守電の対応について ・袖ヶ浦市のST派遣依頼について （2）学術局 ・第3回研修会案内状の承認について ・次年度第1回研修会について

2. 報告事項

（1）事務局より ・郵便物回覧 （2）介護保険委員会より ・介護保険委員会の勉強会の進捗状況 （3）リハビリテーション公開講座作業部会より ・第3回リハビリテーション公開講座の報告

◆ 平成21年度 事務局 編集部

《第1回》

日時：2009年7月5日（日）13時00分～15時45分 場所：君津中央病院

出席：熱海、板倉、上野、平井、牧、村西、古川（以上6名、理事1名）

・今年度の活動計画 ・業務分担 ・印刷業者の決定 ・次号の発送予定

◆ 平成21年度 学術局

《第1回》

日時：2009年5月17日（日）17時00分～18時30分 場所：千葉大学医学部附属病院 第3講堂

出席者：大浦、神作、木下、田野、野島、前里、前田、宮下、寄本（以上8人、理事1名）

・第1回研修会の反省 ・今後の予定

《第2回》

日時：2009年7月5日（日）10時00分～12時00分 場所：菜の花プラザ サークル室A

出席者：平澤、木下、野島、神作、中村、藤田、三井、酒井、田中、建石、深田（以上9名、理事2名）

・学術局の仕事内容と役割分担 ・ビデオ・DVDの管理について ・各研修会の講師の住所確認について ・地域勉強会のニュース掲載について ・第2回研修会スケジュールの確認と役割分担 ・第3回研修会助言者・症例発表者の検討

《第3回》

日時：2009年9月6日（日）17時00分～18時00分 場所：千葉大学医学部附属病院 第一講堂

出席者：平澤、木下、神作、中村、藤田、三井、酒井、田中、深田、建石（以上8名、理事2名）

・第2回研修会反省 ・平成21年第3回研修会について ・平成22年第1回研修会について ・次年度計画案について

◆ 平成21年度 介護保険委員会

《第1回》

日時：2009年5月16日（日）19時00分～20時15分 場所：サティ稲毛店

出席者：勝又、酒井（以上2名）

・勉強会について ・当日の動き

《第2回》

日時：2009年5月31日（日）11時00分～11時40分 場所：船橋市立医療センター

出席者：安島、勝又、酒井、高澤、平澤（以上4名、理事1名）

・今年度の活動内容について ・委員の役割 ・第1回勉強会について確認事項 ・第2回研修会準備について
《第3回》

日時：2009年6月23日（日）19時03分～20時30分 場所：イトーヨーカドー船橋店

出席者：安島、勝又、酒井、高澤、平澤（以上4名、理事1名）

・第1回勉強会反省について県 ・士会第2回研修会について ・委員会第2回勉強会について
《第4回》

日時：2009年8月18日（日）19時30分～20時50分 場所：イトーヨーカドー船橋店

出席者：安島、勝又、酒井、高澤、平澤（以上4名、理事1名）

・県士会第2回研修会について ・委員会第2回勉強会について
《第5回》

日時：2009年10月27日（火）19時30分～21時00分 場所：イトーヨーカドー船橋店

出席者：安島、勝又、酒井、高澤、平澤（以上委員4名、理事1名）平井、坪木（千葉県老人保健施設協議会）

・委員会第2回勉強会について ・次年度の委員について ・第2回研修会発表について ・リハビリテーション公開講座について

◆ 平成21年度 高次脳機能障害委員会

《第1回》

日時：2009年6月21日（日）15時30分～17時30分 場所：千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：佐藤、鈴木、檜本、廣瀬、小嶋（以上4名、理事1名）

・認知課題に関する実態調査について（活動内容） ・作業日程 ・要審議事項（講習会の開催について）

《第2回》

日時：2009年8月23日（日）13時00分～16時00分 場所：千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：鈴木、檜本、佐藤（以上3名）

・認知課題に関する実態調査の集計 ・調査結果報告 ・審議事項（勉強会の開催について）

◆ 平成21年度 組織検討委員会

《第1回》

日時：2009年10月25日（日）9時30分～11時00分 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：平山、鎗田、吉田（以上委員2名、理事1名）

・千葉県言語聴覚士会の法人化について ・日本言語聴覚士会と本会との関係について ・本会の活動について ・組織検討委員会の増員について

◆ 平成21年度 聴覚障害委員会

《第1回》

日時：2009年4月19日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花 サークル室 palA室

出席者：佐藤、高橋、常田、猪野（以上4名）

・県士会研修会の講師料 ・今年度の役割分担 ・今年度の予定 ・研修会について

◆ 平成21年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会

《第1回》

日時：平成21年6月28日（日）10時～12時 会場：千葉県言語聴覚士会事務局

出席者：塘、西脇、矢部、渡邊、宇治吉田、齊藤（公）、木下（以上委員5名、理事3名）野島（その他1名）

・新役員、旧役員 ・今年度作業部会の進行状況 ・作業部会の役割分担 ・申し込み案内について

《第2回》

日時：2009年9月13日（日）10時00分～12時00分 会場：千葉県言語聴覚士会事務局

出席者：塘、岡松、矢部、渡辺、太良木、宇治、齊藤（公）（以上委員6名、理事1名）

・申し込み状況 ・未入金者 ・当日の日程 ・当日の持参品 ・当日の役割 ・入金・県士会/RST 協会会員の有無の確認
・参加証明書、領収証 ・来年度生涯学習プログラム基礎講座・専門講座

◆ 平成21年度 リハビリテーション公開講座作業部会

《第6回》

日時：2009年6月18日（木）19時00分～20時30分 場所：理学療法士会事務所（千葉市中央コミュニティーセンターB1）

出席者：小貫、高橋（以上、PT士会委員）、梶島、椿井、坂田（以上、OT士会委員）、羽場、神作（以上ST士会委員）

・後援申請について ・基調講演、各県士会の演者について ・ポスター、ちらしの郵送について ・各県士会からの入金について ・県民だよりについて

《第7回》

日時：2009年7月30日（木）19時00分～21時00分 場所：理学療法士会事務所（千葉市中央コミュニティーセンターB1）

出席者：小貫、高橋（以上、PT士会委員）、梶島、椿井、坂田（以上、OT士会委員）、羽場、神作（以上ST士会委員）、松川、大熊、日下（以上、講演者）

・各県士会代表講演者との事前打ち合わせ ・ポスター、ちらし配布及び掲示依頼について ・県民だより及びマスコミ投げ込みについて

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

◇ 事務局から ◇

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力お願いいたします。

3. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望があ

りましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。
また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

4. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員 318 名・会友 32 名・賛助会員：5 団体+1 名

（平成21年10月25日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

常光 ちはる(八千代市児童発達センター)

山崎 勇太(らいおんクリニック)

佐藤 光(日産厚生会佐倉厚生園)

西山 千香子(亀田総合病院)

玉川 智美(大石歯科医院)

中島 美加(亀田リハビリテーション病院)

阿部 良子(袖ヶ浦福祉センター)

茂木 愛美(新八千代病院)

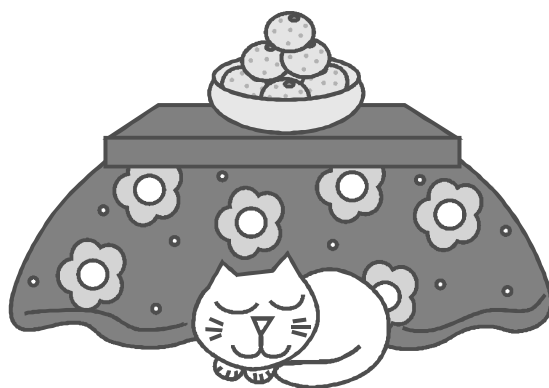
中平 ともこ(亀田ファミリークリニック館山)

西尾 亜紀穂(千葉医療センター)

平野 圭資(千葉県障害福祉事業団)

塚本 由香(森山リハビリテーション病院)

落合 勇人(旭神経内科リハビリテーション病院)



☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

編集員のつぶやき

小・中・高校生を対象に行った旺文社の「ことばに関するアンケート」で、「おまえ、いいかげんにしろよ」など男性言葉を使う女子が約3割もいるといった実態が報告されていました。しかし、この「言葉遣い」の悪さは、小・中・高校生にとどまらず、今、我々の臨床現場でも例外ではなくなってきました。先日も、入職したばかりの職員が、親とも思えるほど年の離れた患者さんに「だめ、だめ、1人で動いちゃ。うん、そう上手いじゃない」と話したり、子どもを連れてきた母親に「それは、発達の段階だからね～。しょうがないよね～」と話したりしているのを耳にしました。子や孫とも思える若者に、友達のようなことばをかけられ、違和感を覚えない人はおりません。本当なら文句の一つを言いたいところを、「患者」「家族」といった立場から我慢されている方もいるでしょう。患者さんは、お金を払い、私達から訓練サービスを買っているのです。患者さんは、いわばお客さまです。入職して半年、あるいは1年も過ぎると職場に慣れ、一人前になったような錯覚に陥る方も少なくありません。もう一度、胸に手を当てて、自分のことば使いを思い出してみましょう。胸の痛い人はいませんか？



17歳東田直樹が語る「自閉症の世界」

2010年2月7日(日) 時間: 13:30~15:45 (13:10 受付開始、途中休憩、質疑応答あり)

会場: 千葉市文化センター5階セミナー室 (JR千葉駅より徒歩約10分) 参加費: 500円 対象: 自閉症当事者、ご家族 定員: 120名 (先着順)

自閉症という障がいのある17歳の高校生・東田直樹さんの講演会を行います。話し言葉では上手に伝えられない彼は、パソコンを使用しながら講演します。

※詳細と申し込み方法は、エスコアールPをご参照ください。



STからの提案で
出来ました。

楽しみながらコミュニケーション力をつける
ことばのゲーム集

12月上旬発行!

失語症のグループワークを実践する言語聴覚士が考えた

編・著 地域ST連絡会 A4判 マニュアル編146頁 教材編フルカラー156頁
CD-ROM付 化粧箱入 2,940円

新刊
情報



対談集 旅は最高のリハビリ!

——失語症海外旅行団の軌跡

監修 NPO法人全国失語症友の会連合会 著 大田仁史、遠藤尚志、失語症者家族
A5判 222頁 1,575円

旅行先の思い出・各国の失語症者との交流をつづった失語症海外旅行団の軌跡。対談集待望の第2弾発行!

12月下旬発行!

対談集第1弾「失語症」と言われたあなたへ 好評発売中!

新規
取扱

言語聴覚士・ことばの教室担当教諭のための

DVD 目で見える日本語音の産生

エレクトロパラトグラフィ (EPG)を用いて

監修・解説 山本一郎 山本歯科医院 矯正歯科クリニック 院長
藤原百合 聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部言語聴覚学専攻 教授
製作・著作 EPG研究会 本編約43分 3,500円

「さかな」を「たかな」と間違えて発音している場合…「さ」と「た」の発音器官の動きの違いはどうなっているのか? このDVDはその違いをわかりやすく視覚化しました。

DVD 言語聴覚士ってどんな仕事?

これから言語聴覚士を目指す方たちへ。

日本言語聴覚士協会/制作・著作 本編約11分 1,050円※1

※1 2009年11月より価格を改定いたしました。

表示価格は消費税込みの価格です。

書籍はまとめて1,500円以上、その他の商品は7,000円以上で送料無料です

ホームページはこちら <http://escor.co.jp>

ネットショップはこちら <http://escor.jp>

障がい児者関連教材
各種開発・販売



株式会社 エスコアール

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢2-36-3
TEL. 0438-30-3090 FAX. 0438-30-3091



補聴器のご相談は安心できる

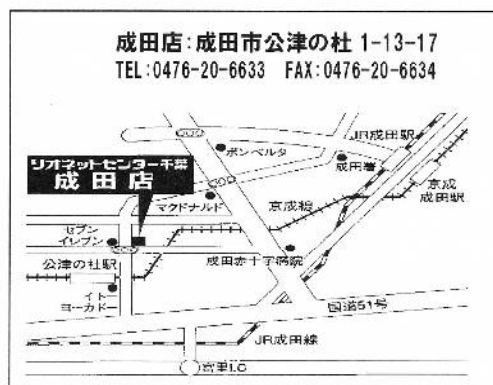
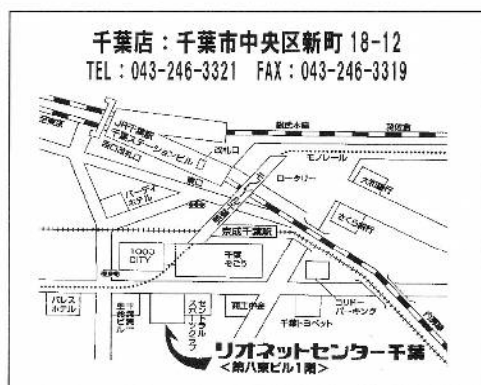
認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ、「財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉



発行所: 千葉県言語聴覚士会

発行人: 吉田浩滋

編集人: 編集部 古川大輔

事務局: 〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

TEL/FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ: <http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード: affordance

印刷: 社会福祉法人 大成会 成田市のぞみの園